

30. 高齢者の語り部が小中学生や青年層を対象に戦争体験を語りつぐ活動

戦争を語りつぐプロジェクト 代表：植田義弘

① 活動の目的

現在すでに小中学生の親には戦争体験はなく、生存している祖父母も少ない中で、かつて悲惨な戦場を体験したり、戦争中に父が戦死したために苦難を味わった高齢者が、現在の小中学生や若者たちに自分の幼少年期の体験を語りつぐことは、親・先祖への理解と感謝の念を呼び覚まし、かつ平和を守る意識を高める上で大きな意味があります。

② 活動の概要

私どもプロジェクトは、過去2年（平成22・23年）にわたり奈良県大淀町の桜ヶ丘小学校、橿原市立大成中学校の生徒を対象に上記の目的で課外授業の実施に協力してきました。

今年度も県内の小中学校（合計20校）あてに戦争を語りつぐ課外授業お勧めの文書を発送しましたが殆ど応答はなく、残念ながら天理市立北中学校1校だけの実施に止まりました。

そこで対象を広く青年層に拡大して、毎年開催されている「戦争体験を聞く会」（葛城市）に参加して記録作成に協力したり、満州事変以来4度にわたり中国戦線に従軍した99歳の元分隊長の体験談、戦後10年目までの厳しい生活環境の記録など、あわせて9件の取材活動を進めました。

これらの記録はすべてホームページ＜戦争を語りつぐ証言集＞に掲載し、表紙目次に「大同生命厚生事業団 平成24年度 助成活動」と表記しています。このHPは開設以来8年間で延べアクセス数20万人超、昨年9月からの1年間のアクセス数は凡そ1.1280人になっています。

以下に、HP表紙の目次の順序に従って、それぞれの活動の概要を報告することといたします。詳細は下記のサイトで確認して下さい幸いです。

（HPサイト）戦争を語りつぐ証言集 [検索]

<http://www.geocities.jp/shougen60/>

- 1) 第2回天理市立北中学校人権デー「平和の大切さと命の尊さを学ぶ」
日時 平成24年9月9日 9時～11時 （毎日新聞奈良版の記事参照）
場所 天理市民会館 山の辺ホール
講演「父の戦死と学童疎開」 講師＝松木 博さん
対象 1～3学年生徒・PTA会員（約300名）

種を打ち鳴らして原爆犠牲者の冥福を祈る参加者たち
—奈良市役所で

**北中生徒300人
戦争体験聞く**
天理

一方、この日、天理市立北中学校（長友宏光校長）の全校生徒約300人は、天理市民会館で戦争体験者の話を聞いた。松木博さん（74）＝写真・橿原市＝が「父の戦死と学童疎開」と題して講演し、

戦中、戦後の苦勞を涙ながらに語った。松木さんは、京都・伏見の出身。父は出征し、1944（昭和19）年、母の故郷である岡山県に一人で疎開。食べ物がないことに困り、栄養失調に。やがて母ら家族も岡山に来るが、松木さんは生活のため、母について仕事を手伝ったという。

ある日、弟がサンマを見て食べたいと言った。しかし、母は「『サンマが食べたかったら、しっかり勉強して働いて、みんなに認められるようになるんだよ』と泣きながら言いました。食べ物がないことほど、みじめなことはありません」

終戦後、父の戦死の知らせが届いた。「親無しっ子」と言われながら、中学にほとんど行かず働いた。勉強していなかったため、集団就職してからも苦労した。「お父さんがいたら…」とずっと思っていたという。最後に「両親を大切に、自分なりに勉強して、素直に『ありがとう』『ごめんなさい』が言える人になってください」と語りかけた。【村本聡】

相手の印象は
橋本監督 対戦した
とはないが、投手が
く、そのくない野球
ものにし、得点する。
初戦への意気込
てきた。
岩切監督 堅実に守
って少ないチャンス

**大滝ダムの
見学者募集**
14日から開催

ささう5月の本体内は
夏でも気温16度の別世
界だ。
ツアーは午前11時～

2) 平成 24 年度「戦争体験を聞く会」の発表記録

「初めて人前で語る長崎の被爆体験」（大岩徹さん）「奉天で体験した戦争の悲惨な結末」（岡本誠郎さん）他 1 名の体験談を記録しHPに公開。大岩さんは、67 年間だれにも被爆体験を話したことはなく、その日はじめて語る決心をしたという。被爆者は差別される恐れがあったからである。会場には小中学生も数人熱心に耳を傾け質問していた。



3) 満州事変から4度中国戦線に従軍した99歳の元分隊長(亀谷音一さん)

鉄カブトに敵の銃弾が命中しながら奇跡的に生還し金鷲勲章を受けた歴戦の勇士は、最後に戦争の実態を口にして二度と戦う気はないと証言。99歳で今も農業に精を出していると聞いて感服した。(右上の写真)

4) 戦後10年の生活環境(宇野良治さん)

終戦の年、宇野さん一家は中国から引揚げてきて、翌昭和21年に小学校に入学。

戦後の食糧難、ヤミ市、空襲の焼跡、アメリカの進駐軍、次第に復興していく世相など、少年の目でこれほど具体的に詳しく記録した資料は珍しい。

5) 「被爆した私は医師から20代までの命と宣告された」(岩崎和利・弘子さん夫妻)

長崎に原爆が投下された翌日、市内に物を探しに入ると黒い雨に打たれて原爆症になった岩崎さんは、放射能障害のため先は短いと覚悟したが、それを承知で結婚した夫人の愛情に守られて82歳の今も長寿を保っている。その体験談をありのままに語ってくれた。(下の写真は岩崎夫妻)

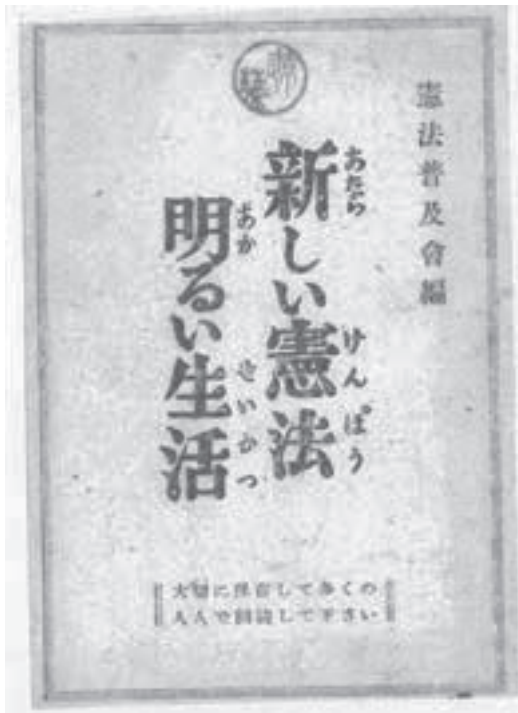


6) スメドリー・バトラー将軍の反戦論「戦争はいかがわしい商売だ」

バトラー将軍は第一次世界大戦で活躍した代表的な軍人でありながら、その将軍自身が執筆した反戦論の紹介。

7) 憲法普及会編「新しい憲法 明るい生活」(昭和22年5月3日発行)

新憲法を普及するため65年前に発行された小冊子入手し、その全頁をファイルにして公開。当時の明るい希望に満ちた社会情勢が懐かしく想起される。



8) 写真展「歴史の歯車」-奈良・戦災の記憶-(上は撃墜されたB29のエンジン)

40代の社員がバイクの荷台に撮影器財を積み、戦争の遺跡を求めて奈良県内を駆け巡ってカメラに収めた写真展。その紹介をかねて記録を作成し公開した。

9) 9条世界会議関西2013 参加報告

10月14日の祝日、大阪中央体育館で開催された標記のイベントに参加した。午後のメイン集会は地下3階のメインアリーナが会場で、第1部 世界に広がる9条では5人の海外ゲストがそれぞれの立場から9条についての熱い思いを語った。第2部 若者が伝える9条では、人を殺す罪悪感を愛国心でごまかさずに、ひとに動かされるのではなく自分で考えることが大事と主張していた。1人1000円の参加費で凡そ5000人が集まった大イベントであった。

③決算報告

収 入	大同生命厚生事業団 平成24年度 助成金	100.000
支 出	戦争体験語り部への謝礼 (@40.000×4名分)	40,000
	取材・編集費 (交通費・資料費・参加費を含む)	53,500
	ホームページ管理・更新のための委託費	27,000
	通信連絡費	8,740
	(自己資金によるネット契約料その他 諸経費を除く)	
	合 計	129,240